

笹川スポーツ財団 30年史

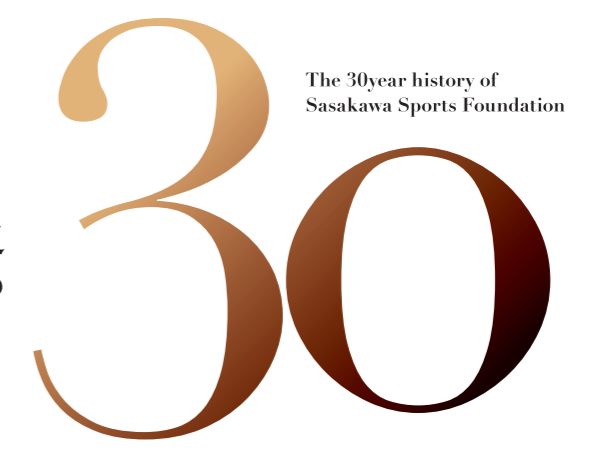
1 9 9 1 — 2 0 2 0

the 30year history of  
Sasakawa Sports Foundation

30

笹川スポーツ財団 30年史  
1 9 9 1 — 2 0 2 0

The 30year history of  
Sasakawa Sports Foundation



# Message

## スポーツの力を、人と社会のために。 スポーツシンクタンクとして、未来を共創する。

公益財団法人 笹川スポーツ財団 理事長 **渡邊 一利**

### 生涯スポーツの普及・発展を目指し30年

1991年にスポーツ・フォー・オールを掲げて設立された笹川スポーツ財団 (SSF) は、2020年で30年の節目を迎えました。一方でその記念の年に広がった新型コロナウイルス感染症は、世界中に未曾有の事態をもたらし、2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会（東京2020大会）が延期されるなど、スポーツ関連のあらゆる事業にも多大な影響を及ぼしました。そのような中、今日も事業を継続し、社会貢献できる研究と実践を行ってきましたことは、皆様方のご支援あってのことと感謝申し上げます。

私たちSSFは設立以来、わが国における生涯スポーツの普及・発展を目指して取り組みを重ねてまいりました。当初は地域スポーツ活動への助成事業である「SSFスポーツエイド」を基幹とし、イベント開催を通じたスポーツ振興事業や調査研究事業を積極的に展開してきました。「チャレンジデー」「スポーツ・フォー・オール国際フェア」「湘南オープンウォータースイミング」など、国内外のスポーツ団体や地方自治体と連携して進めてきたイベントは、好評を博し今日に続くものが少なくありません。「東京マラソン」の立ち上げに参画し、1万人規模のボランティアを組織するなど、スポーツボランティア文化を発信し、運営ノウハウを最もよく知る団体としてご評価いただけるようになったのも長年の努力の賜物です。

もうひとつの大きな蓄積は、調査研究事業で得たデータです。1992年から行っているスポーツライフに関する全国調査は、日本初のスポーツの実施に関する実態調

査です。調査結果は『スポーツライフ・データ』として公開し、スポーツ関係者に広く利用いただいています。平成から令和への長期にわたって積み上げてきた膨大なファクトは、今にいたって、大きな力になっていると実感するばかりです。

### スポーツシンクタンクとして新たなステップ

2001年には「スポーツ・フォー・エブリワン社会の実現」をミッションに掲げ、現実のものとするべく力を尽くしてきました。そして外部環境の変化を踏まえて2009年、スポーツシンクタンクになることを宣言し、2011年から本格的に業態転換しています。

当時はスポーツ立国に向けた政策形成のさなかにあり、文部科学省が2010年にスポーツ立国戦略を策定し、翌2011年にはスポーツ基本法の制定を迎えます。こうした動きの中で、シンクタンクとして政策形成に寄与するため、SSFはエビデンスに基づく独自の意見提示を行うとともに、スポーツ基本法を考えるシンポジウムを通じた問題提起やスポーツ庁設置に向けた提言などを取りまとめました。その結果、2012年に策定された第1期スポーツ基本計画に、数多くのSSFのデータを活用していただくことができました。

2010年代前半は、経営資源が限られる中で、シンクタンクとしての基盤を固める時期でもありました。「諸外国のスポーツ政策調査」「障害者のスポーツ環境調査」といった文部科学省の調査研究を可能な限り受託したほか、「スポーツ歴史の検証」「スポーツアカデミー」な



どスポーツ振興に助成を受けて新しい事業も創始しています。これらの事業をとおして、実績とノウハウを蓄積しながら、外部の組織やキーパーソン、有識者とのネットワークを広げていくことができました。

### スポーツを、人びとの生活の一部に

2015年のスポーツ庁発足後、私はSSFを代表し、スポーツ審議会の委員に就任いたしました。スポーツ審議会では、2017年からの第2期スポーツ基本計画の議論でSSFの調査・研究の成果をもとに積極的に提案し、同計画策定後に設置された健康スポーツ部会では、部会長も務めました。創立以来はじめて公的な場にSSFが参加し、スポーツ政策をつくる場に足場ができたのは、今後へ向けても大きな転機といえるでしょう。

鈴木大地スポーツ庁長官（当時）のもと2017年にスタートしたスポーツ庁の「パブコン」（パブリック・コンペティション）は、SSFが2011年から実施してきたSport Policy for Japanが参考とされました。「パブコン」の議論からは、スポーツ情報ポータルサイト「ここスポ」など、実際に形になったアイデアも生まれ、スポーツ振興に向けて具体的な成果が出ています。

「シンクタンク」として国や自治体、スポーツ団体に提言するのみならず、「ドゥタンク」として具体的な実践につなげることも注力しています。現在、宮城県角田市と連携して行っている地域スポーツ運営組織 (RSMO) の実証実験は、間もなく第2フェーズに入ります。まずはこのような、一つひとつのまちでスポーツが生活の一部になるよう

な実証実験を増やしていきたいと考えています。

人口減少、少子高齢化に伴いさまざまな社会課題が表面化する中、身体、精神、社会の健康増進による社会保障費の有効活用や、スポーツ産業の振興はより期待されているところです。多文化共生社会を形成していく上で、コミュニケーションツールとしてもスポーツは注目されていくでしょう。全国各地の実態をエビデンスとしてインプットし、分析、評価を加えながら、ソリューションとしての提言を出し、地域の方々と一緒に実践を進めてまいります。これからSSFが進むべき方向は、財団の運営基盤の強化とともに外部の人や組織とのネットワークを拡充し、スポーツ・フォー・エブリワン社会の実現に共創することです。そして、SSFがこうしたプラットフォームのハブ（中心軸）として機能することだと思えます。

最後になりますが、2021年3月に逝去されました、小野清子前理事長に心よりお悔やみ申し上げます。20年にわたるSSF代表理事としてのご功績とともに、SSFが政策形成の場に参画していくうえで、国政の場でも活躍された小野前理事長のご先導は非常に大きなものでした。小野前理事長なくして、今のSSFはありえません。

またSSFの礎をつくられてきた方々、日本財団をはじめとする支援して下さった諸団体、ともに事業に取り組んできた有識者やボランティアの皆様をはじめ、関わってこられたすべての方々がいって30年あまりの歴史を紡いでくることができました。誠心誠意感謝を申し上げますとともに、ますます困難な課題にSSFは立ち向かってまいりますので、これからも一層のご協力とご支援をお願いいたします。

# SPORT FOR everyone one

## スポーツを通じたよりよい社会づくりを推進

日本に暮らす一人ひとりが日常生活や人生の中で、自分に合ったスポーツの楽しみ方を見つけ、それを通じて豊かな人生を送る。

それがSSFの目指す“Sport for Everyone 社会”の実現です。

スポーツは「する・みる・ささえる」など多様な楽しみ方があり、世代・国籍・性別・障害の有無などの属性にとらわれず、ともに楽しむことができます。スポーツにはそうした、人と人をつなぎ共生社会をはぐむ力があります。

また、お互いのスポーツ活動をささえ合うことでスポーツの楽しさを倍増させ、ともに助け合うマインドを育てることもできます。

“Sport for Everyone 社会”の実現を通じて、

私たちはスポーツによる共生・共助社会づくりにも取り組んでまいります。

## エビデンスに基づく最適なスポーツの活用方法を提案

スポーツは身体面の健康はもとより、精神面の安定や他者との良好な関係づくりなどにも“効能”を発揮することがわかっています。スポーツシンクタンクであるSSFはこれらスポーツの効能に関するエビデンスを集め、多くの方々にそれをわかりやすく伝え、国や自治体のスポーツ政策に正しく活かされるよう努めます。

次の10年もその先も、社会をよりよくなるツールとしてのスポーツの活用を追求してまいります。

## スポーツによって長くアクティブに生きられる社会へ

SSFは現在、中期目標「GOAL2025」を掲げ「スポーツによって長くアクティブに生きられる社会」の実現に取り組んでいます。

わが国が直面する大きな社会課題のひとつに少子高齢化問題があります。ひとりでも多くの国民がより長く、より健康に人生を過ごせるようになることが喫緊の課題です。私たちは多くの国民がスポーツ活動を通じて心身を健康に保ち、出来るだけ長い間、アクティブに過ごせる社会を目指しています。

客観的で質の高い研究調査活動(Think Tank)と、国内の自治体や内外のスポーツ振興機関・学術組織との連携活動(Do Tank)の“両輪”を回していきながら、

GOAL2025が目指す理想の実現に取り組んでまいります。



## Sport for Everyone 社会の実現

### GOAL2025

# スポーツによって長くアクティブに 生きられる社会



## 主なできごと

### 1991

笹川スポーツ財団 設立  
坪内嘉雄会長 就任



財団初期パンフレット

### 1997

小野清子会長 就任



### 2001

設立10周年記念式典 開催



## 事業・イベント

### 1991 SSFスポーツエイド 開始



### 1992

スポーツ・フォア・オール  
国際フェア 開催



### 1993 チャレンジデー 開催



### 1994 SSF世界スポーツフォト コンテスト開催



### 2004

湘南オープンウォーター  
スイミング 開催



### 2007

東京マラソン 開催

